

隨泉寺寺報

平成27年(2015年) 5月号 第537号

TEL082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

宗組降誕会法座

講師 住職 自修

講題 『いのちめぐまれて』

■親鸞聖人のご誕生について

親鸞聖人は、承安3年(1173)の5月21日にお生まれになりました。西本願寺では明治7年(1875)より、この日を「降誕会」と名づけ、親鸞聖人のご誕生を祝って、多くの行事が催されています。

お生まれになったのは、JR京都駅の東南約10キロメートルにある、現在の京都市伏見区日野大道町の法界寺の近辺であると伝えられています。父は藤原家の流れをくむ日野有範さまとのことであり、藤原一門と言っても「正五位下」という下級貴族であったようです。

聖人は90年の生涯を通して、たくさんの教えと著作を残されながら、ご自身の出世・生涯についてほとんど語られていません。しかし親鸞聖人がお念仏の教えを私たちに残してくださったので、私も今、念仏に会うことができたのです。

5月の法座予定

- 5月 2日.....本部役員会
- 5月10日.....掃除 瀬野川団地・桑原
- 5月15日朝席午前10時より.....初参式・降誕会法要
- 5月15日朝11時より.....門信徒会総会 おとき
- 5月15日昼席午後1時より.....降誕会法座 映画鑑賞
- 6月 2日午後5時より.....門信徒会本部役員会



☆ インド紀行(10) 若院 [5月]

3月5日、この日は早朝からガンジス河の見学に行きました。ガンジス河はヒンズー教において聖なる河であり、毎早朝に信者が聖なる河で沐浴されるのです。その風景を船の上から見学させてもらいました。早朝、まだ日も登らない時間なのに沢山の人が集まりガンジス河の水で体を清めて礼拝していました。日の出の時間になって朝日が昇り、太陽へ向かいながら礼拝する姿は神聖なる信仰の象徴のように感じ、熱心な宗教への思いを感じさせていただきました。自分自身が宗教にどのように向かい合っているのか、深く考えさせていただいた有難い時間でありました。



この日は午後からアグラという町へと移動しました。翌日の3月6日は世界遺産であるタージマハルや市内観光をしました。お昼からは少し足を延ばしマトゥーラという町に行きました。マトゥーラは仏像発祥の地いわれており、博物館には沢山の仏像が展示されていました。この博物館へ来た目的は世界最古の阿弥陀如来像があるとの話でしたので楽しみに来たのです。館内には無造作に仏像が展示されていました。しかしいくら探しても阿弥陀様のお姿が見当



たらない...すると、友人が「ここにあるよ」と教えてくれました。

向かってみると仏像の姿はありません。良く見ると台座に「アミターバブダ」と書かれていたのです。「え?これが?」と最初は思ったのですが、やはりイスラム教の迫害を受けた時にマトゥーラにあった沢山の仏像は破壊されたそうです。その後の発掘調査により発見された時はこの台座しか無かったそうです。しかし、良く見てみると台座には足首までの部分が残っていました。ということは、この仏像が作られた時は立像(立ったお姿)の阿弥陀如来像だったのではないだろうか。浄土真宗では阿弥陀如来様のお姿を現すときは仏像であっても絵像であっても必ず立像のお姿であります。これは、阿弥陀様のお慈悲のおはたらきはもうすでに私の所へと動き出している、ということを表しているのです。2世紀頃に作れた阿弥陀如来像が立像であった事を知らせていただき、ただただお念仏がこぼれるばかりでありました。この日は天気も非常に良くて、マトゥーラ博物館の中庭でインドで過ごした思い出を振り返りながら友人たちとゆっくりとした時間を過ごすことができました。



《初参式》 5月15日午前10時より

赤ちゃんが仏の子として育ち、これからの人生を仏さまのお慈悲に包まれて生きていけるよう、人生の出発にあたり、その誕生を仏さまにご報告する式です。平成26年生まれの子供さん、どうぞ一生に一度のことです。お参りください。

☆浄土真宗本願寺派前門主 大谷光真著 「「あけぼのすぎ」

—浄土真宗一口法話— 5月

「愚かさとは深い知性と謙虚さである」(平沢 興)

浄土真宗の教えは、この世の常識をひっくり返すものであるというのが、私の持論です。今日の日本では、人々がだんだん賢くなってきたように感じられます。科学技術の進歩は申すまでもなく、自分や自分の組織団体の利益を計ることについて、更に、都合が悪くなると、責任を組織に押しつけて逃げる姿にも、よく現れています。でも、このような賢さでは、生きる意味や喜び、いのちの尊さは、わかりませんし、社会も乱れます。



親鸞聖人やその師匠、法然聖人のお言葉からわかるのは、阿弥陀如来さまの智慧に照らされて、受け止められた自らの愚かさです。自らの愚かさに気付くことは、実は、本当の賢さではないでしょうか。そこから、自分のいのちと他のいのちを等しく見ることが知らされ、御同朋御同行と支え合って生きる道が開かれます。

6月 カレンダー法語

東井 義雄師

感動のある人生

「こころの味」を大切に

近頃の子どもは、私たちの子ども頃とは違った金銭観をもっているようです。「お金は生きて太っていくものだ。貸せば利子がつき、借りれば利子をとられる。その太り方は、何年かたてば、決してばかにならないものになる」と考え、兄弟でも利子を取り合ってお金の貸し借りをしているといます。

ある中学一年の女生徒は作文に「私は高校を出たらすぐ結婚する。結婚したらなるべくはやく離婚し、いしゃ料をとって貯金する」と書いたといます。

小学生の頃から、お手伝いはもちろん、弟や妹に勉強を教えるのも、テストで百点をとるのも、みんなそれが財源になるように育てられているからでしょう。

これから厳しい世の中を生きぬいていかなければならない子どもたちです。そういうがめつきも、悪いとばかりはいえないでしょう。しかし、お金に頭を縛られてしまうと、お金を超えたところにある、人生の味や、よろこびが見えなくなってしまう危険があります。生きるよろこび、感動の味わえない子どもに育ててしまえば、とり返しのつかないことになってしまいます。そのためには、ま

ずお母さん方が、感動のある人生、こころの味を大切にするお母さんになってくださらなければなりません。

九州で、ある女子高校生の作文をいただきました。

「母の日」

私が母の日を意識しはじめたのは、小学校四年のときでした。一週間百円の小遣いの中から五十円出して、お母さんの大好きな板チョコをプレゼントしたのがはじまりでした。あのときは きまりがわるくて、お母さんのエプロンのポケットにねじこむなり、逃げるようにしてふとんにもぐりこみました。誰かが聞いたら笑うんじゃないかしら、そんな喜びとも不安ともつかない複雑な気持ちのまま、私はいつしか深い眠りにおちていきました。

ところが、翌朝、目を覚ましてみると、私の枕もとに一枚の手紙と、板チョコの半分が銀紙に包んでおいてありました。

「ルリ子、きのうはプレゼント、どうもありがとう。お母さんね、いままで、あんなおいしいチョコレートを食べたことはなかったよ。こんなにおいしいんだもの、お母さん一人で食べるのはもったいなくて、お母さんの大好きなルリ子にも半分食べてほしくなりました。どうか、これからも、元気で、素直な、よい子になってくださいね」

読んでいるうちに涙がこみあげてきて、あのときほど、お母さんの子に生まれてきたことをほこりに思ったことはありませんでした。あのときの感激は、生涯、忘れることはないでしょう。

というのです。ルリ子さんにこの感動を味わわせたのは、ただの五十円の板チョコの中に、どんな高価なチョコレートの中にもない味を感じとられた、お母さんのあり方ではないでしょうか。お母さんは、こうして、お金を超えた世界を、感動的にルリ子さんに自覚させられたのです。

《映画鑑賞》 『幸せの黄色いハンカチ』 追悼 高倉健さん



昨年亡くなった高倉健さんの代表作で住職も大ファンの作品です。理屈を超えてお楽しみください。

刑務所帰りの中年男が、偶然出会った若い男女とともに妻の元へ向かうまでを描いた山田洋次監督によるロードムービー。過去を持つ主人公の物語と若いカップルのラブストーリーが北海道の四季とともにつづられ、1977年に公開されるや大ヒットを記録し、その年の映画賞を独占した。主演は名優・高倉健、その妻役に倍賞千恵子、製作当時映画初出演の武田鉄矢、桃井かおりらが共演。

☆ 御礼

永代経懇志 金 拾万円 七竹にしき殿 故七竹則男様 特別永代経志として
永代経懇志 金 五万円 西川 邦子殿 故西川 元様 特別永代経志として
永代経懇志 金 拾万円 古堀 恭子殿 故古堀岩男様 特別永代経志として
永代経懇志 金 貳百万円 観心院釋正護 中本健一殿 遺言にて

☆ 御礼

門信徒会へ 金 一封 西川 邦子殿 故西川 元様 香典返しとして
門信徒会へ 金 一封 下垣チエコ殿 故下垣良一様 香典返しとして